

新聞掲載記事のご紹介



病院の
実力

九州編

禁煙でリスク減らす

平成26年8月3日(日) 読売新聞 朝刊 34面(地域面)

全国の主な病院の治療実績について、読売新聞がアンケートした結果を掲載する「病院の実力」。今回は肺がんを取り上げる。一覧表には、手術件数、早期がんに対して行われる「定位照射」という放射線治療の数に加え、手術、放射線治療、抗がん剤治療を担当する医師の数を示した。

肺がん

病院の実力「肺がん」

医療機関別体制と
2013年治療実績(読売新聞調べ)

都道府県	医療機関名	手術を受けた患者数	定位照射を受けた患者数	手術執刀医師数	放射線治療担当医師数	化学療法担当医師数
		(人)	(人)	(常勤、人)	(常勤、人)	(原則専従、人)
	産業医大	177	13	8	5	4

地域の中核施設として、別の病気を併発し治療の難しい患者を引き受けることも多いが、「あきらめない治療」を信条にしている。

田中さんらは、原則すべての患者について、がん細胞の遺伝子検査を行っている。分子標的薬と呼ばれる新しいタイプの抗がん剤は、遺伝子変異の有無によって効果に違いがあるためだ。まれな遺伝子変異についても研究を進めている。



「個別化治療」。ひとくちに手術と言っても、進行がんと完治が望める早期がんでは、手術の方式や意味合いは異なる。

産業医科大病院(北九州市八幡西区)第2外科教授の田中文啓(あきら)さんが「写真」が目指すのは、患者ひとり一人に合った

■抗がん剤に遺伝子検査

(読売新聞社に転載について許諾済)